

コアグラ-ゼⅧ型黄色ブドウ球菌による食中毒

松崎 静枝・片山 淳・岩崎 明・宮村 恵宣
和田 隆至・正田 聖事・戸石 泰則

日本食品微生物学会雑誌

第13巻 2号, 89~91 (1996)

1995年5月3日, 山口県下関市で開催された野球大会に参加し, 大会事務局が手配した昼食用の幕の内弁当を摂取した選手, 父母などが発症した。摂食者数254名, 患者数91名, 死者0名で, 潜伏時間は3~6時間のものが多くみられ, 主症状は腹痛, 下痢, 嘔吐, 嘔気であった。

細菌検査の結果, 患者糞便5/13, 弁当残品23/39, ふきとり材料5/24, 調理従事者糞便0/5から黄色ブ

ドウ球菌を分離した。分離された菌株はすべてコアグラ-ゼⅧ型, エンテロトキシンB産生であった。

発生要因は調製能力を越えた無理な調理と, 昼食用の弁当にもかかわらず, 朝8時に配達を依頼し, 長時間戸外に放置した大会事務局の配慮に欠けた取扱にあると考えられた。

Astrovirus as a Cause of Gastroenteritis in Japan

Etsuko T. UTAGAWA, Shuichi NISHIZAWA, Seiji SEKINE, Yukinao HAYASHI
Yuichi ISHIHARA, Isao OISHI, Akira IWASAKI, Ikutaka YAMASHITA
Kikuko MIYAMURA, Shudo YAMAZAKI, Sakae INOUE and Roger I. GLASS

Journal of Clinical Microbiology 32 (8), 1841~1845 (1994)

1982年から1992年の間, 全国6県において発生した流行及び散発事例の胃腸炎患者の便からEIA法によりアストロウイルスの検出を行った。

学童や成人の3つの流行事例が, アストロウイルスによることが判明した。他の細菌やウイルスが検出されない胃腸炎の散発事例から, アストロウイルスが6~10%検出された。

また, 散発事例ではアストロウイルスは1歳以下の乳児から最も高率に検出され, 季節的には3~4月がピー

ク(全体の65%)で, 6~10月では検出されなかった。流行事例でみると, EIAは電子顕微鏡(EM)法より, 高感度であった。

しかし, EMでアストロウイルス様粒子が見られた材料でもEIA法で陰性のものもあった。これは, 長期間保存し, 凍結融解の繰り返しなど保存状態の不良によるためであろう。EM陽性例では, EIAで45~69%の検出率であった。